

いきいき 行田人

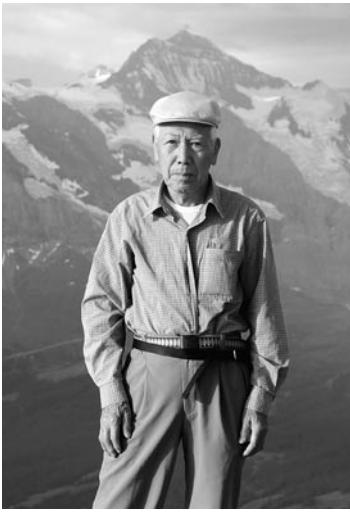
山登りは元気の源

登り続けて60年

河田 克己さん（79歳・佐間）

山へ登って60年。79歳となった今でも、楽しみながら生き生きと山登りをしているのが佐間にお住まいの河田克己さんです。

休みの日の列車は登山客で満員となるほど、山登りが人気のレジャーだった昭和30年前後。これまで秩父の宝登山や武甲山などに数回行ったことがあった河田さんは、19歳のころに近所の友達と甲斐駒ヶ岳へ登ろうと計画を立てました。3千メートル級の甲斐駒ヶ岳は、山頂まで約8時間、泊まりがけで臨まなければならず、初心者には難易度の高い山でしたが、「はじや鎖などを使って登る場所もあって、スリルがあった」と険しい道のりも楽しんだ河田さんは、周りに高い山々が見える山頂からの景色に感動し、山登りに魅せられたそうです。それから、1人でも山へ行くようになると、谷川岳の有名な岩場「一ノ倉沢」に登りたいとの動機から、昭和31年に東京の山岳会に入会。年間を通して各地の山々を登っ



て豊富な知識と経験を得た河田さんは、時に遭難救助活動を行うほどの山登りのスペシャリストとなりました。

登山ブームとともに、行田市でも昭和35年に行田山岳会が発足すると、その運営に携わり、多くの市民から親しまれ同会の恒例イベントとなった夏のハイキングや冬のバススキーなどを企画し、昭和60年からは同会会長も務めている河田さん。会員数の減少に悩んだときも、初心者が参加しやすいようにと団体名を行田山の会に変更したり、ハイキングを継続して実施し会員募集に努めたりして、たくさんの人に山登りの楽しさを知ってもらう活動を続けてきました。3年前に体調を崩し、1年間山登りができない日々が続いたそうですが、山登りが心と体のリハビリであるかのように、その翌年には復帰し、現在でも毎月2〜3回の山登りを続けています。このような、いつまでも生き生きとした活動が認められ、「エイジレス・ライフ実践者」として埼玉県で唯一内閣府から表彰を受けた河田さんですが、「好きなことをただひたすらにやっていただけのこと」と受賞を謙虚に受け止めています。

「歩けるうちは山に登り続けたい。今後の目標は、仲間とともに歩いた思い出の残るヨーロッパアルプスへ毎年訪れたい」と語る河田さんは、果てることのない山への思いを胸に、今日も歩き続けます。

私の作品

俳句

矢場 安田 幸江

秋の野に一直線の白い道

緑町 鈴木喜久女

爽やかに声かけゆきし山の径

北河原 磯貝美智江

蟋蟀のソロ演奏も合奏に

北河原 木島 徳哉

大利根の荒瀬いつしか秋のいろ

門井町 小暮 愛子

一瞬の又一瞬の稲光

壱里山町 大竹 祐子

裏道のやさしき日差花芒

門井町 宮田 淑尚

新米をてんこ盛して三世代

本丸 吉田 昌代

蝉じべれ空気がよとも動かざる

荒木 藤田 栄之

懐古しつ国勢調査記する秋

忍 岡田 修

鵜が帰る利根たつぷりと夕焼けて

矢場 鈴木かずの

ざらざらと恥らいもなき残暑かな

城西 榊原しずか

冬瓜を分けて貰ってまた分けて

持田 伊藤 洋子

松茸を記念に写す古希の旅

持田 丸山 麟一

秋の空噴煙棚引く浅間山

城南 町田 達男

入道雲消えたる天の深さかな

(木島 斗川 監修)

『花台とバラ』(石粉粘土)

中岫 和子(城西)



◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。